

科目	解剖学Ⅱ			必修	履修学年	2	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	64 (4)	
目標	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の構造を理解する。										
内 容											
1	血管系	血管系	17	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔の構成						
2	〃	体循環と肺循環	18	〃	咽頭・喉頭の構成						
3	〃	血管の構造と機能	19	〃	肺・縦郭の構成						
4	〃	門脈	20	消化器系	消化管の構造と機能						
5	心臓	心臓の構造	21	〃	口腔～食道						
6	〃	刺激伝導系	22	〃	咽頭・喉頭の構成						
7	〃	心臓の栄養血管	23	〃	胃の構成						
8	動脈の走行	頭頸部	24	〃	腸の構成						
9	〃	胸腹部・骨盤	25	〃	肝臓の構造						
10	〃	上肢	26	〃	膵臓の構造						
11	〃	下肢	27	〃	腹膜の構成						
12	静脈の走行	体循環系の静脈	28	泌尿器系	腎臓の構造						
13	〃	奇静脈・門脈循環	29	〃	尿路系の構成						
14	胎児循環		30	生殖器系	男性生殖器						
15	リンパ循環		31	〃	女性生殖器						
16	定期試験		32	定期試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
解剖学 医歯薬出版社											
				担当講師	桑原 俊男						

科目	生理学Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時 間 数	64 (4)
目 標	生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問である。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していく。									
内 容										
1	循環	心臓の構造	17	生殖	生殖器					
2	〃	刺激伝導系	18	〃	受精と発生					
3	血管	動脈・静脈・毛細血管	19	成長と老化	個体の成長					
4	〃	肺循環・体循環・冠循環	20	〃	加齢変化・更年期障害					
5	呼吸	外呼吸・内呼吸	21	内分泌	ホルモンの種類					
6	〃	気管・肺の構造と機能	22	〃	ホルモンの調節と機能					
7	肺胞換気	肺におけるガス交換	23	内分泌器官	視床下部ホルモン					
8	消化	酸素・二酸化炭素の運搬	24	〃	甲状腺ホルモン					
9	〃	口腔～食道の構造と機能	25	〃	副腎皮質ホルモン					
10	吸収	胃の構造と機能	26	血液	血液の成分と機能					
11	〃	小腸・大腸の構造と機能	27	〃	血液凝固作用					
12	栄養	栄養とエネルギー	28	体温	体温の調節					
13	〃	同化作用と異化作用	29	〃	体温の産生と放散					
14	代謝	基礎代謝・物質代謝	30	排泄	腎臓の構造と機能					
15	〃	糖質・脂質・タンパク質	31	〃	体液の調節・排尿反射					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版社										
					担当講師	広瀬智道				

科目	病理学概論			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時 間 数	64 (4)
目 標	<p>身体を構成する細胞・組織・器官が正常な形を保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている病理学は、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある要因を明らかにしていきます。</p>									
内 容										
1	第1章	病理学とは	17	第6章 進行性病変	肥大と増殖					
2	第2章	疾病の概念	18	〃	再生・化生					
3	〃	疾病の分類	19	〃	移植					
4	〃	疾病の症候と経過	20	〃	創傷治癒・異物の処理					
5	第3章 病因	内因	21	第7章 炎症	炎症の一般					
6	〃	外因	22	〃	炎症の分類					
7	〃	小児疾患	23	第8章 腫瘍	腫瘍の一般					
8	第4章 循環障害	ヒトの循環系	24	〃	〃					
9	〃	充血・うっ血	25	〃	良性腫瘍					
10	〃	貧血・虚血・出血	26	〃	悪性腫瘍					
11	〃	血栓・塞栓・梗塞	27	第9章 免疫異常・アレルギー	液性免疫・細胞性免疫					
12	〃	水腫・ショック	28	〃	アレルギー					
13	第5章 退行性病変	萎縮	29	〃	免疫不全・自己免疫異常					
14	〃	変性	30	第10章 先天性異常	先天性異常総論					
15	〃	壊死と死	31	〃	遺伝性疾患・染色体異常					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
病理学概論 第2版 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	荻野修平				

科目	臨床医学総論 I			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)	
目標	疾病概念を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。疾患に対する検査法を選ぶことが出来て、疾患と検査を結びつけることが出来る。										
内 容											
1	診察の概要	診察の意義・診察の一般心得									
2	〃	関連用語の理解・診察法の種類・診察の									
3	診察方法	医療面接									
4	〃	診察方法（視診・触診・打診・聴診）									
5	〃	測定法									
6	生命徴候の診察	バイタルサイン									
7	〃	体温・脈拍									
8	〃	血圧・呼吸									
9	全身の診察	顔貌・顔色・他									
10	〃	精神・言語・他									
11	〃	身体計測・体形・他									
12	局所の診察	頭顔面部・他									
13	〃	眼・耳・鼻・他									
14	〃	頸部・胸部・他									
15	定期試験	定期試験									
16	総括	総括									
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
臨床医学総論 医歯薬出版社 配布資料											
							担当講師	内田舜			

科目	臨床医学総論Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)	
目標	臨床医学総論Ⅰに引き続き、疾病概念と病態を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。疾患に対する検査法を選び、疾患と検査を結びつけることができる。										
内 容											
1	神経系の診察	感覚検査法・反射検査・他									
2	〃	脳神経系・髄膜刺激症状の検査									
3	運動機能検査	運動麻痺									
4	〃	不随意運動									
5	〃	徒手筋力検査・他									
6	その他の診察	緊急時の診察・年齢、性別毎の診察									
7	臨床検査法	一般検査・血液性化学検査									
8	〃	生理学的検査概要・画像診断概要									
9	主症状の診察法	頭痛・顔面痛・歯痛・眼精疲労									
10	〃	鼻閉・鼻汁									
11	〃	めまい・耳鳴り・難聴・他									
12	治療学	概要・薬物療法									
13	〃	食事療法・理学療法									
14	臨床心理	患者の心理・心理学的検査・評価法									
15	定期試験	定期試験									
16	総括	総括									
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
臨床医学総論 医歯薬出版社 配布資料											
							担当講師	内田舜			

科目	臨床医学各論 I			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	64 (4)
目 標	<p>身体を構成する器官が正常な振る舞いを保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている人体と、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ちなど疾病の背後にある要因を明らかにし各疾患を理解することを目的とします。</p>									
内 容										
1	感染症	細菌性	17	呼吸器疾患	感染性肺疾患					
2	〃	〃	18	〃	閉そく性肺疾患					
3	〃	ウイルス性	19	〃	びまん性肺疾患					
4	〃	その他	20	〃	腫瘍性疾患					
5	神経・筋疾患	脳血管疾患	21	〃	その他					
6	〃	感染性疾患	22	循環器疾患	心臓疾患					
7	〃	脳脊髄疾患	23	〃	動静脈疾患					
8	〃	変性疾患	24	〃	冠動脈疾患					
9	〃	認知証	25	〃	血圧以上					
10	〃	筋疾患	26	消化器疾患	口腔疾患					
11	〃	運動ニューロン疾患	27	〃	食道疾患					
12	〃	末梢神経疾患	28	代謝性疾患	胃疾患					
13	〃	神経痛	29	〃	腸疾患					
14	〃	機能性疾患	30	〃	肝臓疾患					
15	まとめ	質疑応答	31	まとめ	質疑応答					
16	定期試験	筆記試験	32	効果判定	筆記試験					
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編										
					担当講師	内藤啓				

科目	臨床医学各論Ⅱ			必修	履修学年	2	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	64 (4)
目標	<p>身体を構成する器官が正常な振る舞いを保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている人体と、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ちなど疾病の背後にある要因を明らかにし各疾患を理解することを目的とします。</p>									
内 容										
1	感染症	食中毒の原因	17	呼吸器疾患	日和見感染					
2	〃	と市中感染	18	〃	結核					
3	〃	ワクチンが有用な感染症	19	〃	閉そく性肺疾患					
4	〃	免疫低下をきたす疾患	20	〃	肺線維症					
5	神経・筋疾患	半側空間無視	21	〃	肺気腫					
6	〃	パーキンソン病	22	循環器疾患	弁膜症					
7	〃	神経腫瘍パーキンソン病	23	〃	心房細動					
8	〃	認知症	24	〃	肥大性心筋症					
9	〃	〃	25	〃	心不全					
10	〃	深部感覚障害	26	消化器疾患	歯周病					
11	〃	筋ジストロフィー	27	〃	消化器のがん					
12	〃	胸郭出口症候群	28	その他	ホルモン異常					
13	〃	神経麻痺	29	〃	腫瘍マーカー					
14	〃	〃	30	〃	肝臓の疾患					
15	まとめ	質疑応答	31	まとめ	質疑応答					
16	定期試験	筆記試験	32	効果判定	筆記試験					
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編										
					担当講師	内藤啓				

科目	リハビリテーション医学		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	鍼灸師の立場でスポーツトレーナーを行っていた経験を活かして、これまで現場で経験した障害発生の機序、リハビリテーション領域における運動療法、物理療法によるアプローチ、また患者の心理面でのサポートの考え方、障害を負った患者に対する家族の関わり方を学習し、卒後の臨床現場に活かせるよう知識を深めます。								
内 容									
1	リハの総説	リハビリテーションと障害リハビリテーション医学と医療							
2	〃	障害の評価							
3	〃	障害の評価							
4	医学的リハ	理学療法①							
5	〃	理学療法②							
6	〃	作業療法							
7	〃	言語聴覚療法							
8	〃	補装具、リハビリテーション看護ソーシャルワーク							
9	運動の仕組み	関節と運動力学							
10	〃	神経伝導路							
11	〃	関節構造、関節の動き①							
12	〃	関節構造、関節の動き②							
13	〃	関節構造、関節の動き③							
14	〃	正常歩行と異常歩行							
15	総括								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
リハビリテーション医学 医歯薬出版社									
						担当講師	木村 健太郎		

科目	基礎はりきゅう学 I (基礎各論)		必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)	
目標	はりきゅう学の基礎習得のために、東洋医学・臓腑・経絡・経穴・正経十二経、奇経八脈などを学ぶ									
内 容										
1	東洋医学の特徴	東洋医学の沿革・人体の見方								
2	〃	日本の東洋医学の現状								
3	生理と病理	生理事物と神								
4	〃	蔵象①								
5	〃	蔵象②								
6	〃	経絡								
7	〃	病因病機								
8	東洋医学の思想	陰陽学説								
9	〃	五行学説								
10	四診	望診								
11	〃	聞診								
12	〃	問診①								
13	〃	問診②								
14	〃	切診								
15	弁証論治									
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
東洋医学概論 医道の日本社										
					担当講師	鎌田敏孝				

科目	基礎はりきゅう学Ⅱ（経絡経穴論）	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	（単位 時間 数）	32（2）	
目標	各経脈の走行や経穴の部位及び特性について学習する。 各経脈の走行を把握し、十四経脈の経穴及び要穴を覚える。								
内 容									
1	経絡・経穴の基礎								
2	督脈								
3	任脈								
4	太陰肺経								
5	陽明大腸経								
6	陽明胃経								
7	太陰脾経								
8	少陰心経								
9	太陽小腸経								
10	太陽膀胱経								
11	少陰腎経								
12	厥陰心包経								
13	少陽三焦経								
14	少陽胆経								
15	厥陰肝経								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
経絡経穴概論 医道の日本社									
					担当講師	鎌田敏孝			

科目	基礎はりきゅう学Ⅲ（東洋医学概論）		必修	履修学年	2	授業の方法	講義	（単位数） 時間数	32（2）	
目標	<p>人の身体を「総合的に診断し、治療を行う」といわれる東洋医学の概念や理論・治療法を理解し、臨床で活かせる知識を学ぶ。 東洋医学の特徴である「人の全体を診る」ということを理解し、治療が行える考え方を身に付けることを目標とする。</p>									
内 容										
1	弁証	八綱弁証								
2	〃	気血津液弁証								
3	〃	臓腑弁証								
4	〃	経絡弁証								
5	〃	六淫弁証								
6	〃	その他の弁証								
7	論治（治則）	扶正去邪・治病求本・標本同治								
8	〃	陰陽の調節、正治と反治								
9	〃	解剖見学実習								
10	〃	〃								
11	〃	〃								
12	〃	〃								
13	〃	生体物質の病証に対する治法								
14	〃	臓腑の病証に対する治法								
15	〃	補瀉法、選穴の原則、特定穴の応用								
16	定期試験									
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>新版東洋医学概論 医道の日本社 配布資料</p>										
						担当講師	荻野修平			

科目	分野別はりきゅう学 (はり及びきゅうの適応の判断)			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時間 数	64 (4)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	はき学が臨床に応用できるための授業を行う。医学理論に基づく治療原則・治療計画・治療法を理解すること。各症候・疾患により適切な治療計画を立てることができることを心がける。 現代医学的・東洋医学的な考え方を理解して、診察法・診断・治療法が出来るか。各疾患・症状について症候の分析、適応の判定、治療法を説明でき、東洋医学的な弁証論治を立てることができることを目標とする。										
内 容											
1	病因・病機	病機	17	女性特有疾患	天癸						
2	病因・病機	外感病因	18	女性特有疾患	月経						
3	病因・病機	内傷病因	19	女性特有疾患	月経前緊張症						
4	脾の病理	脾気虚	20	女性特有疾患	月経困難症						
5	脾の病理	脾陽虚	21	女性特有疾患	帯下						
6	脾の病理	脾虚湿性	22	女性特有疾患	妊娠						
7	胃の病理	胃の病証	23	女性特有疾患	不妊						
8	中間試験	試験終了後解説	24	中間試験	試験終了後解説						
9	脾系統	消化器疾患	25	小児疾患	小児の特徴						
10	脾系統	消化器疾患	26	小児疾患	発熱						
11	脾系統	消化器疾患	27	小児疾患	発達障害						
12	脾系統	脾胃虚弱	28	小児疾患	小児喘息						
13	脾系統	脾胃湿熱	29	治療と応用	治療穴						
14	脾系統	食滯胃脘	30	治療と応用	治則						
15	前期試験	試験終了後解説	31	後期試験	試験終了後解説						
16	総括		32	総括							
評 価											
西洋医学的、疾患や症状を理解できるか。 東洋医学的に診察し、弁証論治ができるか。 東洋医学、西洋医学を総合的にみて、診察法、治療計画、治療法の組み立てが出来るか。											
教 材											
新版東洋医学臨床論 南江堂 他											
				担当講師	鎌田敏孝						

科目	東洋医学臨床論			必修	履修 学年	2	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時間 数	64 (4)	
目 標	現代医学と東洋医学を総合した鍼灸治療の実際を学習し、医療面接のもと、治療の適・不適を判断することができる。 臨床上遭遇しやすい症候、疾病について現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方の双方を学び適切な鍼灸治療方法を理解し、説明をすることができる。										
内 容											
1	治療総論	現代医学、東洋医学の治療計画	17	治療各論	排尿障害						
2	〃	〃	18	〃	インポテンツ						
3	〃	〃	19	〃	頸肩腕痛						
4	治療各論	頭痛	20	〃	肩関節痛						
5	〃	顔面痛、顔面神経麻痺	21	〃	上肢痛						
6	〃	歯痛	22	〃	腰下肢痛						
7	〃	眼精疲労	23	〃	月経異常						
8	〃	鼻閉・鼻汁	24	〃	運動麻痺						
9	〃	脱毛	25	〃	高血圧・低血圧・発熱						
10	〃	めまい・耳鳴り・難聴	26	〃	のぼせと冷え						
11	〃	咳嗽・喘息	27	〃	不眠						
12	〃	胸痛、腹痛	28	〃	疲労・倦怠						
13	〃	悪心・嘔吐	29	〃	スポーツ医学に関する鍼灸						
14	〃	便秘・下痢	30	〃	小児の治療						
15	総括		31	〃	老年医学に対する鍼灸						
16	定期試験		32	定期試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
東洋医学臨床論 医道の日本社 配布資料											
					担当講師	東條雅裕					

科目	社会あはき学概論	必修	履修学年	2	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】								
目標	地域クリニックの連携（同意書面）を経ての療養費訪問鍼灸施療の経験を活かして、鍼灸施術と医療機関の関係性の持ち方や、患者の検査結果と鍼灸施術の守備範囲や専門医への紹介方法、文書、医療介入のすみ分け、各疾患毎の診察診療の基礎と具体的なプライマリアクションなど再現性の高い方法、手段を教育する。							
内 容								
1	第1章	総論 社会的ニーズとあはき師の役割						
2	第4章	高齢社会におけるあはき師の役割						
3	〃	認知症におけるあはき師の役割						
4	〃	少子化社会におけるあはき師の役割						
5	各疾患ごとの施術	脳卒中①						
6	〃	脳卒中②						
7	〃	脊髄損傷①						
8	〃	脊髄損傷②						
9	〃	切断						
10	〃	小児疾患						
11	〃	整形外科						
12	〃	関節リウマチ						
13	〃	末梢神経障害・パーキンソン病						
14	〃	呼吸・循環器疾患						
15	総括	まとめ						
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
社会あはき学 第3版 医道の日本社								
						担当講師	荻野修平	

科目	はりきゅう応用実技Ⅱ			必修	履修 学年	2	授業 の方法	実習	(単 位 数) 時間 数	64 (2)
目 標	現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。臨床現場での執務経験を活かして、実務的なレベルで疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につける。									
内 容										
1	単刺	頸部、体幹	17	低周波鍼通電	頸部の筋、骨の触察技術					
2	〃	体幹、殿部	18	〃	後頭下筋群					
3	〃	上肢	19	〃	〃					
4	〃	下肢	20	〃	〃					
5	〃	症状別	21	〃	寝違え、可動域障害					
6	運動鍼	頸部、体幹	22	〃	視力調節障害、眼精疲労					
7	〃	体幹、殿部	23	〃	背部の骨筋構造の触察技術					
8	〃	上肢	24	〃	脊柱起立筋					
9	〃	下肢	25	〃	〃					
10	〃	症状別	26	〃	〃					
11	灸	頸部、体幹	27	〃	〃					
12	〃	体幹、殿部	28	〃	〃					
13	〃	上肢	29	〃	腰部の触察と判断					
14	〃	下肢	30	〃	筋膜性腰痛					
15	〃	症状別	31	〃	非特異性腰痛					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	増田知行				

科目	はりきゅう治療実技Ⅱ			必修	履修学年	2	授業の方法	実習	(単位数) 時間数	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目標	鍼灸院を開設し患者、クライアントの診療経験を活かして現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズに的確に応えていくための授業を行う。またそれがクライアントや療術施設へのリスク管理にもつながる。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならないことを具体例を織り交ぜながら教育する。									
内 容										
1	理学所見と判断	症状の判断と施術（下肢）	17	婦人科疾患	灸					
2	〃	〃	18	〃	灸					
3	〃	〃	19	〃	低周波鍼通電					
4	〃	症状の判断と施術（胸郭出口）	20	スポーツ疾患	単刺					
5	〃	〃	21	〃	置鍼					
6	〃	症状の判断と施術（上肢、体幹）	22	〃	低周波鍼通電					
7	〃	〃	23	〃	灸					
8	〃	〃	24	〃	テーピング、運動療法					
9	〃	〃	25	〃	リハビリ					
10	〃	〃	26	退行性変性	関節炎					
11	問診と触察	ケーススタディー	27	〃	〃					
12	〃	ケーススタディー	28	〃	筋萎縮					
13	〃	ケーススタディー	29	〃	〃					
14	〃	ケーススタディー	30	〃	運動療法					
15	〃	ケーススタディー	31	〃	ボディーメカニクス					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
				担当講師	鎌田敏孝					

科目	分野別はりきゅう実技 (はり及びきゅうの適応の判断)			必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	(単位 時間 数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	病態を正確に把握し基礎的な知識・技術を理解し、臨床能力の基礎を身に着ける。効果や結果があるからこそ正しく応用しなければならぬことを理解し実践で応用ができるために行う。特に触診、鍼灸師にとって必要な能力であり重視して行う。									
内 容										
1	四診・治法	脈診	17	腹痛	慢性胃炎					
2	四診	脈診・治法	18	腹痛	過敏性腸症候群					
3	四診	脈差診	19	腹痛	精神的腹痛					
4	四診	脈差診・治法	20	悪心	急性胃炎					
5	四診	腹診	21	嘔吐	慢性胃炎					
6	四診	腹診・治法	22	便秘	便秘					
7	四診	腹診	23	下痢	下痢					
8	治療法	補瀉	24	月経異常	月経前症候群					
9	歯痛	顎関節症	25	月経異常	月経前症候群の治療					
10	眼精疲労	眼精疲労	26	月経異常	月経困難症					
11	治法	VDT選穴、治療	27	月経異常	月経困難症の治療					
12	鼻閉・鼻汁	アレルギー	28	月経異常	月経困難症の治療					
13	脱毛症	円形脱毛	29	中医学	前立腺					
14	めまい	メニエール病	30	中医学	前立腺肥大症					
15	耳鳴り・難聴	無難聴性耳鳴り	31	中医学	西洋医学的鑑別					
16	総括		32	総括						
評 価										
授業態度、授業を正しく理解し取穴・施術できているか。 生きた経穴を取穴できるか。 西洋医学的診断が正しくできるか。 効果や結果を正しく評価できるか。										
教 材										
新版東洋医学臨床論 南江堂 他										
					担当講師	鎌田敏孝				

科目	スポーツ医学	必修	履修学年	2	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	32 (2)	
目標	身体の構造や機能を理解し、正常動作、移乗動作について学習する。運動能力を最大限発揮するために必要な知識を身に着け、スポーツ現場、介護現場等でのリハビリテーションや機能訓練に活かす。								
内 容									
1	関節と運動	関節運動とてこ・空間における関節運動							
2	姿勢・異常姿勢	重心と重心線・異常姿勢							
3	運動路と感覚路	運動路・感覚路							
4	反射と随意運動	脊髄反射、反射							
5	〃	平衡反応、連合反応と共同運動							
6	体幹の機能	椎骨、椎間板、脊柱の動きと、筋の作用、胸郭の動きと呼吸筋作用							
7	肩甲帯の機能	肩甲帯・肩の構造、主な筋、回旋筋腱板、肩甲上腕リズム							
8	肘・前腕の機能	肘と前腕の構造、主な筋							
9	手・手指の機能	手関節の骨構造と関節・主な筋・手のアーチ・内在筋・変形							
10	股関節の機能	骨盤と股関節の構造・主な筋・股関節の動き・股関節の異常							
11	膝関節の機能	膝関節の構造、主な筋、膝関節の異常							
12	足の機能	足の構造、主な筋、足のアーチと変形							
13	正常歩行	歩行のサイクル、速度とエネルギー消費							
14	異常歩行	歩行の分析と異常歩行							
15	総括								
16	効果判定								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
					担当講師	木村 健太郎			